

## Ⅵ. 研究グループ中間報告

### 1. キャリア・総合人間科

## 本年度のキャリア・総合人間科の取り組み

### キャリア・総合人間科研究グループ

#### 1. 前年度までの成果と課題の確認

- ・10年を経過した総合人間科は、マンネリか最良のプログラムか？
- ・従来型教科指導による「基礎、基本」と総合人間科での「自ら考える力」の融合をめざす
- ・キャリア形成を意識した指導は、特定の学年（中1、高3）だけでなく、3年間あるいは6年間を通して行うのが望ましい
- ・マイナーチェンジはあるものの現行のまま実施すべし

#### 2. 研究協議会に向けて

##### (1)公開授業

目標 ; 高3の先輩から6年間の経験に基づくアドバイスを聴くことで、中1の学習の意欲向上、動機づけをはかると同時に、キャリア意識の芽生えを助ける。

##### 概要

- 〈前半〉3教室用意し、1部屋に高3生を2人配置。中1も3会場に分かれる。高3は6年間の学びについてスピーチを行う。
- 〈後半〉会場を1教室にする。スピーチを行った高3生で座談会を行う。(卒業生を交える予定もある) 参観者との質疑応答を行う。

##### (2)分科会

助言者：金井篤子教授

##### 概要

中高6か年でどのように生徒がキャリア意識を形成していくかを探る。とくに、自ら課題を設定・調査・発表・報告する総合的学習（総合人間科）での主体的な取り組みが、生徒の中でどのようにキャリア意識の形成に貢献したかを考察してみる。また、総合的学習やキャリア形成に関する意見交換や討論も行う予定である。

#### 問題点

2時間もの長時間をどのように充実させるかが課題である。  
フロアからの意見がたくさん出ると思われるので、討論に時間を割くのが良いか。  
助言者の金井先生に講話をしていただく。

#### (3)卒業生に対するアンケート

目的 : 総合人間科での経験が高校卒業後、どのように生かされているかをさぐる

(佐藤 俊樹)

〈資料〉 名古屋大学教育学部附属高等学校 卒業生 総合人間科アンケート

1. 名大附属に在学中の総合人間科のテーマ〈個人あるいはグループ〉を、学年ごとに書いてください。(思い出せる範囲でかまいません)
2. 高校在学時の総合人間科に対するあなたの意識は、次のどれに最も近かったですか。  
(いずれか1つに○をつけてください)  
① 大好き                      ② まあまあ好き                      ③ あまり好きでない                      ④ 嫌い
3. 高校卒業時の進路選択に総合人間科は役立ちましたか。  
(いずれか1つに○をつけてください)  
① かなり役立った                      ② まあまあ役立った  
③ あまり役立たなかった                      ④ 全然役立たなかった
4. 上記の3. の質問で①または②を答えた方へ、どのように役立ちましたか。(自由記述)
5. 現在のあなた自身に、名大附属での総合人間科の経験は生きていますか。  
① かなり生きている                      ② まあまあ生きている  
③ あまり生きていない                      ④ 全然生きていない
6. 上記の5. で①または②を答えた方へ、どのように生きていますか。(自由記述)
7. 前記の3. ③または④を選び、上記の5. で①または②を選んだ方へ、総合人間科に対する考え方の変化はどんな理由によるものですか。(自由記述)